

乾いた土の匂い、重たい泥の匂い、行ったことのないウイグルの土を踏みしめる。脳裏の景色をサリナさんの言葉に委ねる。サリナさんの心もかつての農夫が遺した言葉に委ねられている。

だんだだだだん だんだだん、おっと思うと石ではないが  
だんだだだだん だんだだん、泥がぶしょつと沸いてきて  
だんだだだだん だんだだん、泥に嵌まつて

だんだだだだん だんだだん、足はおしゃかだ  
だんだだだだん だんだだん、隣のじじいはそのまま沈んだ

だんだだだだん だんだだん、次はお前だ お前だよ

だんだだだだん だんだだん、泥に嵌まつて

だんだだだだん だんだだん、足はおしゃかだ

だんだだだだん だんだだん、隣のじじいはそのまま死んだ

だんだだだだん だんだだん、次はお前だ お前だよ

だんだだだだん だんだだん、日照りに灼かれて

だんだだだだん だんだだん、踏み込めなければ

だんだだだだん だんだだん、後ろを向いて

だんだだだだん だんだだん、見張りがいれば

だんだだだだん だんだだん、おっと思うと心臓は

だんだだだだん だんだだん、泥がみたいにくによりと曲がつて

だんだだだだん だんだだん、泥に嵌まつて

だんだだだだん だんだだん、心はおしゃかだ

鍬で掘って、掘って、石を掘って、泥を掘って、河はいつかはできてはいくのですが、しかしその頃には鍬もまた曲がり、腰もまた曲がり、彼らの生活は代わらず貧しく、犠牲とも言い難いようならみとつらみが、一節一節に宿るような、河のうた、オウステン ナフシスイ、命を助ける水があるなら、命を助けた命があった。

オウステン ナフシスイ、河づくりのうた

オウステン ナフシスイ、男とこはみんな

オウステン ナフシスイ、故郷を離れた